

東日本大震災被災地派遣 第33班活動報告

平成23年10月18日~21日

33班 岩本 亜希子 (PSW)
樟山 真理 (Ns)
小林 佐依子 (栄養士)
真栄里 仁 (Dr)

災害派遣の状況

- 被災後7か月を経過し、行政機関も通常業務が中心に。
- 各地方の保健師チームは、派遣数は減少したが応急仮設住宅や戸別訪問を継続。
- 大船渡病院精神科に震災後のケア・連携を担当する医師が配置され、定期的な意見交換が可能になった。
- 朝夕の気温差が大きく、県内では「マイコプラズマ肺炎」「RSウイルス」が増加しており、支援者の健康管理が必要。

活動スケジュール

10月18日（火） 大船渡へ移動

県）合同庁舎 活動開始の挨拶・カルテ等引き取りなど

市）介護保健センター 活動開始の挨拶

10月19日（水） 戸別訪問活動、支援者ミーティング

* 大船渡市精神保健関係者会議はクローズドの為参加せず

10月20日（木） 戸別訪問活動、こころの相談室対応

10月21日（金） 戸別訪問活動、県）市）へ引き継ぎ



活動内容

【訪問活動】

訪問件数：12件（新規訪問ケース：1件）

診療：6件

不在：5件

連絡つかず：1件

【こころの相談室】

予約件数：3件（継続：2件、再開：1件）

診察：3件

訪問活動

【主な訪問地域】

大船渡町、末崎町、赤崎町、三陸町吉浜

- 訪問8ケース（複数訪問あり）のうち
アルコール関連問題：4件
その他、パニック障害・適応障害・不眠症・PTSDなど。
- 新規訪問ケース1件
- 他院でフォローされている2ケースに関して、本人や通院先との了承を得て終結とした。

●

●

【新規訪問ケース】 60代男性 アルコール問題・せん妄
県）保健師より依頼され訪問を実施。

- 初回は妻を対象に訪問を実施。
 - アルコール問題で介入されることは本人拒否する可能性が高いと述べた為、地区の訪問医療相談の一環として偶然を装い後日訪問する形にすることとした。また、かかりつけ医に当チームが関わっていることの連絡をお願いした。
- 妻より連絡を受けたかかりつけ医から、こころの医療チームの訪問を勧められ、2回目訪問は本人も了承したうえで介入
 - 医師より本人へ症状と飲酒の関連を丁寧に説明。本人もせん妄以降は断酒に取り組んでおり、飲酒日記を使い介入。訪問への受け入れもよく、フォロー継続の方針。

こころの相談室

【診察】

予約3件すべて診察

うち継続2件（PTSD, 統合失調症）再来1件（うつ病）

- 入院加療を受け入れるため家族に対しての介入をするケースや中断ケースへの精神科受診勧奨など、保健師や関係機関と連携を取り情報共有しながらケースワークを行う必要性があるケースが増加傾向にある。

活動を通して

- 県立大船渡病院精神科に震災後のケア・連携を担当する医師（千葉Dr）が配置され、定期的な意見交換の場を持って、入院が必要なケースや通院中のケース等の連携がスムーズに行うことが可能になった。
- 継続ケースは地域の医療機関への受診に対し拒否的で、敷居の高さをあらためて実感。
- 不在ケースや訪問時間の限定など、確実に訪問・介入できる工夫が必要。